

正確なトリアージ図る

戸田市本町の戸田中央総合病院(原田容治院長、492床)で24日、大規模災害訓練が行われた。治療が必要な被災者を受け入れ、早く正確に軽症者に緑色のカードを出し、中程度の者に黄色いカード、重症者には赤のカードを渡し、3段階の傷病に応じた治療につなげる分別作業(トリアージ)に重点を置いた。病院の医師や看護師、職員ら計322人が参加。同病院を含め市内などの14の系列施設でも、それぞれ独自の訓練を行った。

戸田の病院で災害訓練

訓練は午後1時ごろ、県南 発生したと想定。発災から2部直下型で震度6強の地震が 時間後の午後3時、病院正面発生し、病院内の電気、ガス、玄関前の屋外にビニールシートを敷いたトリアージポストの、地域で多数の傷病者が が開設され、午後5時ごろま



大災害時にけが人のトリアージのため被災者(右)から聞き取りを急ぐ男性看護師たち(左の2人)＝戸田市の戸田中央総合病院

2時間で100人受け入れ

での2時間で100人の傷病被災者を受け入れた。近接する戸田中央産院とリハビリテーション病院から、負傷した患者を受け入れる連携訓練も実施した。

被災者受け入れの窓口はトリアージポストに限定した。次々に運び込まれる傷病者に、看護師らが駆け寄り「お名前は」「歩けますか」と話し掛け、けがの部位や程度を聞き取り、医師を呼び、トリアージを丁寧、そして手早く進めた。

自力で歩けない黄色のカードや赤いカードの人は車いすやストレッチャーに乗せられ、病院内へ次々に運び込まれた。

トリアージポストで医師グループのリーダーを務めた消化器外科の医師、三室晶弘さん(51)は「実際はもっとたくさん傷病者が来る。こんなにのんびりはできない」。訓練を見守った総責任者の原田容治院長(68)は「災害時に重傷者とそうでない人を見分けるトリアージを間違わないで正確に、素早くやれる実力が大事」と訓練を重ねる必要性を強調した。

訓練終了後の講評で、戸田医師会の金子健二会長は「災害時に医師会の活動とどう協力していくかが課題。連携していきたい」と語った。